

一般講演

1. Free T₄ の測定意義

村木 秀樹 杉山 茂 佐藤 均
(新潟ガンセンター・放)
筒井 一哉 佐藤 幸示 (同・内)
渡辺 清次 (新潟県立瀬波病院・放)

Amerlex Free-T₄ キットを用いて各種甲状腺疾患における臨床検討を行った。同キットの再現性は測定内の CV 値が 4.0%, 測定間 10.7% 以内と良好であった。正常人36例の正常域は 0.8~2.2 ng/dl であった。甲状腺機能亢進症および低下症は高値および低値で正常域との重なりは見られず、TBG 増多の妊娠は RSU 低値、T₃、T₄ は正常上限だが Free-T₄ は正常域内にあり、TBG 欠損症は RSU 高値、T₃、T₄ 低値だが Free-T₄ TSH は正常域内に、神経性食思不振症は T₃ 低値であったが、Free-T₄ は正常であった。FT₄I および T₄/TBG との相関係数は 0.851 および 0.869 と T₄ のそれ 0.782 より良好であった。TBG 欠損症の FT₄I および T₄/TBG 値は相関からはずれ甲状腺機能を反映しない値となつたが、Free-T₄ は正常であった。Free-T₄ は TBG の変動状態があつても甲状腺機能をよく反映した。

2. ²⁰¹Tl-Chloride による甲状腺疾患の診断

上北 洋一 広瀬仁一郎 西野 茂夫
浅野 章 早坂 和正 菊池 雄三
三橋 英夫 天羽 一夫 (旭川医大・放)

われわれは ¹³¹I あるいは ^{99m}TcO₄⁻ による甲状腺シンチグラムで欠損像を呈した結節性甲状腺腫に対して ²⁰¹Tl-Chloride によるシンチグラムを施行し、その cold nodule への RI 集積パターンを立野らの分類に従つて行い、その質的診断の可能性について検討した。

充実性腫瘍には良性悪性を問わずに陽性に、のう胞形成には陰性に描画される傾向があり、諸家らの報告と一致する。すなわち ²⁰¹Tl シンチグラムで欠損像に描画される時は悪性の可能性は比較的低く、診断的価値が高かった。また甲状腺癌転移巣にも陽性描画され、その診断的価値も高かった。しかし陽性描画例では、疾患別での明らかな集積パターンの差を認めず、多核種による診断

²⁰¹Tl delayed scan・ECHO-CT との併用が鑑別上必要であると考える。

3-1 塩化タリウムによる結節性甲状腺腫の質的診断

又吉 嘉伸 李 敬一 宮川 隆美
(青森中央・放)

組織診断の確定した結節性甲状腺腫50例(癌28例、良性疾患22例)の20分後像(early scan)、3時間後像(delayed scan)について、良・悪性の鑑別能を比較検討した。

集積度の強さは、健常甲状腺に比較して明らかに高いものを(+)、ほぼ同程度を(±)、明らかに低いもの(−)とした。

その結果、delayed scan で癌は(+)20例、(±)3例(−)5例、良性疾患は(+)1例、(±)4例、(−)17例であった。

以上から、delayed scan で①(+)はほぼ悪性である。②(±)は良・悪性の鑑別が困難である。③(+) (±)を示す良性疾患は慢性甲状腺炎や腺腫様甲状腺腫の割合が高い。④(−)を示した癌のうち、1.5 cm 以下3例、1.7 cm 1 例みられ、(−)を示しても径の小さい結節性甲状腺腫では癌を否定できない。

3-2. ²⁰¹Tl の甲状腺集積比について

筒井 一哉 (新潟ガンセンター・内)

結節性甲状腺腫の中で、²⁰¹Tl がとりこむのは何か見るため、コンピューターイメージにて腫瘍の一定面積と正常甲状腺との集積比で検討した。

良性でとり込みが多かったものは管状腺腫と索状腺腫で、悪性では乳頭腺癌と汎胞腺癌が高かった。予後の悪い未分化癌、扁平上皮癌、悪性リンパ腫は、²⁰¹Tl では低かったが ⁶⁷Ga で陽性であった。

結節性甲状腺腫の ²⁰¹Tl シンチの意義は、良性悪性の鑑別ではなく、組織型推定に有効と思う。